

2013.11.16

生誕 200 年
二人オペラ作曲家

ワーグナーとヴェルディ

第5回
最終回

プログラム

今年生誕200年を迎えた、音楽史上最大のオペラ作曲家と言われるワーグナーとヴェルディ。二人の偉大な足跡を辿るシリーズの第5回目、最終回です。今回はオペラ以外を中心に別の角度から作品の魅力に迫ります。

ヴェルディの弦楽四重奏曲は、唯一の室内楽曲で、1873年の作品。第4楽章をスケルツォ風のフーガで書き上げるなど意欲的で流麗な佳曲。「アヴェ・マリア」は1880年作の美しい小曲。中期の名作、「リゴレット」からは第2幕での父と娘の心の葛藤を描く終幕の場を、アンコールを含めた演奏でお聴きください。レクイエムはオペラ以外では最も良く知られた作品で、美しい旋律と劇的な表現に圧倒される傑作です。

ワーグナーの「ジークフリート牧歌」は妻コジマの誕生日のために書かれた作品で、穏やかな曲想と、素朴な美しさに溢れた名曲。「ヴェーゼンドクスの5つの詩」は1858年の作品で、当時のパトロン、マティルデ・ヴェーゼンドクス夫人の詩に曲が付けられました。原曲は女声とピアノですが、管弦楽編曲版を4曲目までをモットルが、5曲目をワーグナー自身が書いています。「パルジファル」はワーグナー最後のオペラで、ひとりの若者が“共に苦しむ”事によって罪に苦悩する王を救う、という独自の宗教色が強く出ている作品で、今日は最も有名な“聖金曜日の音楽”を聴いていただきます。交響曲ハ長調は1832年の作品で、ベートーヴェンの影響を受けながらも、しっかりとした構成力を持った初期の力作です。

この特集では入り切らない偉大な二人のオペラ作曲家ですが、興味を持つ切っ掛けになれば幸いです。

ジュゼッペ・ヴェルディ (1813~1901):

弦楽四重奏曲ホ短調 (カール・ヘルマン編曲弦楽合奏版) ~ 抜粋

ソプラノと弦楽合奏のための“アヴェ・マリア”

マリア・アグレスタ (ソプラノ)/アントニオ・パッパーノ指揮ローマ聖チエチーリア音楽院管弦楽団
(2013.7.20 ロンドン、ロイヤル・アルバートホールでのLive)

歌劇“リゴレット” ~ 第2幕 終幕の場 ~ アンコール

レオ・ヌッチ(バリトン)/インヴァ・ムーラ(ソプラノ)
マルチエツロ・ヴィオッティ指揮ヴェローナ野外劇場管弦楽団
(2001.7.21 ヴェローナ野外劇場でのLive)

レクイエム (死者のためのミサ曲) ~ レクイエム ~ 怒りの日 (テイェス・イレ) ~

哀れな私 (クイドースム・ミゼール) ~ 涙の日よ (ラクリモサ) ~ 我を許したまえ (リベラ・メ)
ミレルラ・フレーニ(ソプラノ)/フィオレンツァ・コッソット(アルト)
ブラシド・ドミンゴ(テノール)/ニコライ・ギヤウロフ(バス)
ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団/ウィーン楽友協会合唱団
(1975.8.24 サルツブルク祝祭大劇場でのLive)

*** 休憩 ***

リヒャルト・ワーグナー (1813~1883):

ジークフリート牧歌

ダニエル・バレンボイム指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1973.12.17 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)

ヴェーゼンドクスの5つの詩 ~ 第1曲“天使” / 第4曲“悩み”

ビルギット・ニルソン (ソプラノ) / ラルス・ルース (ピアノ)
(1978.3.9 東京文化会館大ホールでのLive)

ヴェーゼンドクスの5つの詩 ~ 第5曲“夢” (ワーグナー管弦楽編曲版)

マルヤーナ・リポヴシエク (メゾ・ソプラノ) / ヴォルフガング・サヴァリツシュ指揮NHK交響楽団
(2001.10.18 NHKホールでのLive)

舞台神聖祭典劇“パルジファル” ~ 第3幕 “聖金曜日の音楽”

ヴァーツラフ・ノイマン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
(1991.10.13 ウィーン、ムジークフェラインザールでのLive)

交響曲ハ長調 ~ 第1楽章から、第2楽章から、第4楽章

リッカルド・シャイー指揮ベルリン放送交響楽団
(1983.2.14 ベルリン放送教会大ホールでのLive)